

「マイ・ストーリー」を描き、それを語れる力が、これからの大学入試で希望進路を実現するために必要とされることを検証し、そうした力を生徒に育む教師の指導や支援のあり方・方法を、実践事例を通じてお伝えしたVIEWnext高校版 2021年8月号・特集はこちら ▶



「マイ・ストーリー」とは、生徒一人ひとりの「自分のこれまでの学びや活動、その成果や結果に至るまでのプロセス、これからの展望」を指す。総合型選抜や学校推薦型選抜（以下、推薦型選抜）を始めとするこれからの大学入試に向けて、「マイ・ストーリー」を描き、それを語れる力を生徒に育む実践事例を紹介する。

1・2年次

「マイ・ストーリー」の軸づくり

やりたいことを見いだせるよう、選択の

場を設け、自分の内面と向き合わせる

東京都・私立桜丘中学・高校

マイ・ストーリー
1・2年次
の課題

- ・ 教科・科目の得意・不得意だけでなく、自分のやりたいことを見極めて進路選択ができるようにする
- ・ 進路選択に関する思い込みから抜け出し、自分の興味・関心と向き合って将来を考えられるようにする

✓ 校内外で様々な体験をしてこそ、
自分の興味・関心が分かる

難関国公立大学や首都圏の私立大学の志望者が多い東京都・私立桜丘中学・高校は、「広げる進路指導」を基本方針とし、1年次から校内外で様々な体験をするよう、生徒に呼びかけている。生徒は、保護者や親戚の職業くらいしか知らず、教科・科目の得意・不得意だけで文理や志望学部を選びがちだが、職業や学問について十分に理解を深めた上で、「マイ・ストーリー」の軸となる自分の興味・関心を見極めてほしいと、進学指導部副部長の

友利啓智先生は語る。

「真剣に考えた末の希望進路であれば、多少の困難があっても、その実現のために諦めずに立ち向かうはず。深く知った上で、興味・関心がないと分かることも、進路選択において前進だよ」と生徒に伝え、とにかく多様な体験を積むことを促しています」

校内では、大学合同説明会や社会人のキャリア講演会などを実施。22年度には、企業と連携し、関心のある職業に就いている社会人に、生徒が個別に連絡を取り、オンラインで話を聞く相談会を新たに始めた。校外の活動については、高校生向けの大学のイベントや

コンテスト、ボランティア活動などの案内を一覧化し、クラウド上で生徒に共有している。それらの活動を通じて、生徒が自分のやりたいことを考えられるよう、同校では様々な工夫を凝らしている。

全員参加の進路行事では、生徒が何かを「選ぶ」過程を設けている。例えば、大学合同説明会では、「話を聞きたい大学」を2大学選び、社会人キャリア相談会では、候補者の中から「取材対象者」を選ぶ。選ぶ過程で自分が何に興味・関心があるのかを考え、活動に主体的に取り組むようにするねらいがある。面談では、「数学が苦手だから文系」「医療系は就職に有利」といった思い込みから抜け出し、自分がやりたいことに向き合えるような声かけを意識している、友利先生は話す。

「文系志望の生徒にも、理系学部のオープンキャンパスへの参加を勧めたり、医師志望の生徒に、その理由を尋ね、『弱者を助きたい』と答えたら、『福祉でも弱者を支援できるのでは?』と問いかけたりするなど、生徒の視野を広げることを大切にしています」

✓ 進路係や教師の個別の声かけで、
情報を自分事として捉えさせる

校外の活動については、案内をクラウドにアップした後、朝礼で、各学級の進路係の生徒が各活動の概要を説明し、クラウド上の案内を確認するよう、他の生徒に促している。

「マイ・ストーリー」の軸を見いだすための1・2年次の活動と支援上の工夫

校内

- ・大学合同説明会（1年次は学問系統別、2・3年次は大学別）
- ・卒業生の進路講演会
- ・社会人のキャリア講演会
- ・オンライン社会人キャリア相談会
- ・海外大学進学説明会
- ・海外姉妹校の留学生受け入れ
- ・卒業生によるチューター制度
- ・「総合的な探究の時間」での探究学習 等

支援上の工夫

- ・全員参加の活動では、できるだけ選択形式にし、生徒が話を聞く先を選ぶ機会を設ける。
- ・希望する学問・業種・職業とあえて異なるものを見聞きするよう勧める。
- ・「興味・関心がないと分かることは、進路選択では大切」と生徒に伝え、多くの体験を勧める。

校外

- ・大学や企業などが主催するイベント、コンテスト、職業体験、ボランティア活動の案内
- ・学校行事：研究所見学／異文化研修旅行（2年次、北海道・九州・沖縄から選択）／東北研修（3年次）／海外語学研修／企業インターンシップ／地方創生プロジェクト等

支援上の工夫

- ・朝礼で、進路系の生徒が学校外のイベントの概要を説明し、クラウド上の案内を確認するよう、他の生徒に促す。
- ・進路係は参加状況を集約して、担任に報告。担任は各生徒の興味・関心を把握し、その後の指導に生かす。
- ・生徒一人ひとりの興味・関心や志向に応じて、担任がこまめに学外の活動を案内する。

ポートフォリオへの蓄積

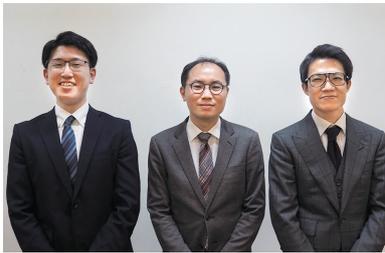
活動の内容や感想、気づきなどを文字と画像で残す。

志望理由書作成講座・面談講座

ポートフォリオを基に、「マイ・ストーリー」を組み立てる。

同校には4つのコースがあり、実施する活動はコースによって異なる。

※学校資料と取材を基に編集部で作成。



左から／古市達樹（1学年担任、2021年度3学年担任）、樋山陽亮（進学指導部部長）、友利啓智（進学指導部副部長）

学校概要

- ◎設立 1924（大正13）年
- ◎形態 全日制／普通科／共学
- ◎生徒数 1学年約400人
- ◎2022年度入試合格実績（現役のみ） 国公立大は、北海道大、埼玉大、千葉大、東京外国語大、東京海洋大、東京学芸大、岡山大、東京都立大などに52人が合格。私立大は、慶應義塾大、上智大、中央大、東京理科大、法政大、明治大、立教大、早稲田大などに延べ1244人が合格。

様々な体験を「マイ・ストーリー」につなぐ指導や、自分軸を探す体験重視の新設コースの取り組みなどを紹介！

VIEWnext ONLINE ▶▶



進学指導部部長の樋山陽亮先生は、次のように説明する。

「担任が伝えるよりも、クラスメートが伝える方が、生徒は情報を自分事として捉えるので、進路係を設けました。また、進路係は案内した活動の参加状況を集約して、担任に報告します。担任は、参加状況から各生徒の興味・関心を把握し、指導に役立てています」

面談等で生徒の志向を把握し、興味・関心を持ちそうな活動を、個別に、こまめに勧めていると、1学年担任の古市達樹先生は語る。

「自分に向けて話してくれている」と感じられれば、生徒の心は動き、コンテストなどの大きなイベントに挑戦する動機づけになります。自分の志向をよくつかめていない生徒には、たくさん質問をして話させることで、興味・関心が浮かび上がるようにしています」

体験の記録は、生徒が自分でポートフォリ

オに蓄積する。個人的に行った活動も、活動内容とその時に感じたことを入力するよう、生徒に繰り返し伝えている。

「興味・関心を持ったことや疑問に感じた点などを言語化することは、自分の思いを確認し、問題意識を掘り下げることにもつながります。また、志望理由書を書く時になって、体験の内容を覚えていなければ、書きようがありません。自分の記憶力を過信せず、都度記録するよう伝えていきます」（古市先生）

蓄積した体験を「マイ・ストーリー」の形にする場の1つが、2年次1月から行う志望理由書作成講座だが、その参加も希望制だ。

「自分の軸をいつ見いだせるかは生徒によって違いますし、期日を設けるものではないと考えています。とことん試行錯誤し、納得できる『マイ・ストーリー』を描けるよう、生徒個別に支援しています」（樋山先生）